

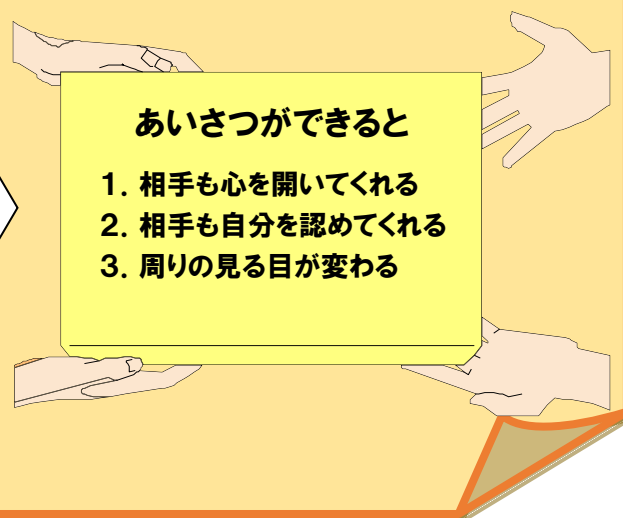
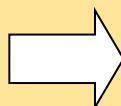
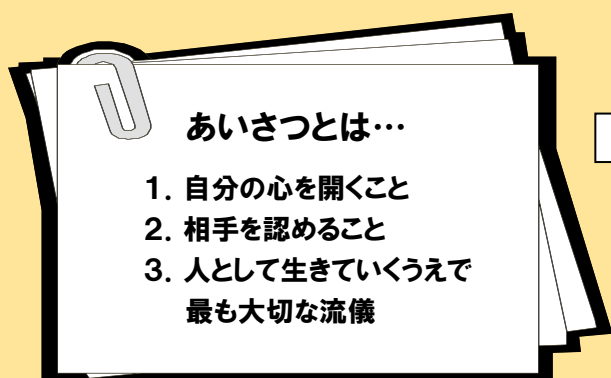


## あいさつをすると〇〇が変わる!

みなさんは、普段から誰に対しても気持ちのよいあいさつをしていますか。即答で「している」と答えられるあなたは、素晴らしい。「仲のいい友達にはしているけど…」、「したくても恥ずかしくて…」という人が多いのではないのでしょうか。でも、そんなあなたも、あいさつが大切なことはなんとなくわかっていることでしょう。

全国の教育機関でセミナー（講演活動）を行い、その受講者数は30万人を超えるという木下晴弘さんは、あいさつの大切さを次のように述べています。

- あいさつを大事だと思うその心が大事。
- あいさつをすると、相手の存在を認め、相手に対して心を開くことができる。
- 周りの人があいさつしてくれないのは、自分が周りにあいさつしていないというだけのこと。
- あいさつは自分から、相手の目を見て、大きな声で、笑顔で!
- あいさつは、人が人として生きていくうえで、最も大切な流儀。
- あいさつは自分を変える。自分が変われば周りの世界が変わる。
- 親があいさつをすると、子供を幸せにできる。



11月には、五色台集団宿泊学習・職場体験学習、3年生は3学期に高校入試を控えています。家庭や学校で、普段から気持ちのよいあいさつを心がけていなければ、入試の面接試験など、ここぞという時のあいさつもなかなかできないものです。

あいさつに関する木下さんの意見を参考にして、本物のあいさつができるようになれば、きっと周りの世界が変わってくるでしょう。みなさんも今日から少し意識してあいさつをしてみましょう。

自分の目標を定めて歩きだしたのだから  
自分の一歩をしっかりと信じて進もう  
— その決意が 最後まで歩く力を生む

出発点には〈人生〉など まだない  
到着点にこそ わが〈人生〉はあるのだ  
歩きつづけ生きぬいた尊い証明として

他の人より一歩先を歩くからといって  
他の人より優れているとは限らない  
他の人より一歩後を歩くからといって  
他の人より劣っているとは限らない

いま わたしの踏みしめる一歩は  
だれか他の人の一歩ではない  
わたしの足が地上に刻む一歩は  
いつでも わたし自身の一歩なのだ

自分の一歩 宮沢章二

校内の掲示板(黒板)から